

第38回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

特集

ふくしま駅伝

後編
只見町チームのタスキを繋ぐ、ランナー

練習を重ね、「チーム」になる

11月15日(日)に開催される大会に向けて、選手は週2回、夜の町下グラウンドで練習に励んでいます。今年初めて参加する選手、去年の自分を超えようと取り組む選手。ひとりひとりが目標を持ち、「チーム」として強くなっています。また、11月5日には結団式が行われ、選手が決意を新たにしました。

今回の特集では、監督の目黒英樹さんや町を代表して走る選手の皆さんの思いを聞きました。



酒井 健生(たける)さん
(只見中3年)

中学生、大人がともに厳しい練習を乗り越えてきました。応援してくださる皆さん、サポートの皆さんに感謝し、今までにないような上の順位を目指して、チーム一丸となり一生懸命頑張ります。



菊田 あさ美さん
(朝日小教)

3回目の出場で初めての1区。エースが集う区間なので、どこまでトップの選手に食いついていけるか、挑戦したいです。そして、町の代表として出場できることに感謝の気持ちを持って走りたいです。





2　1



3

1_中学生と大人が切磋琢磨　2_10月11日、只見町駅伝競走大会の日の午後、町下グラウンドでランニングアドバイザーの三津家貴也さんに指導してもらいました　3_太もも・お尻を使った「疲れない走り方」を教えてもらいました



監督　目黒　英樹さん

今年の只見町チームは、中学生を中心とした若さあふれるチームです。スローガンは「あいさつ・返事・笑顔」。走力だけでなく、日頃の生活からチームとしての成長を目指しました。また、来年暫定開通する国道289号八十里越でつながる三条市からも選手が参加し、新たな絆が生まれました。地域や世代を越えて心をひとつにし、一本のタスキに思いを込めて、最後まで諦めずに走り抜きます。チームを支えてくださる皆さんへの感謝を胸に、只見町の代表として精一杯頑張ります。

「ふるさと応援選手」として三条市出身の選手が参加します

今年のふくしま駅伝から、一部の市町村は仕事場がある人やふるさと納税をした人などを対象にした「ふるさと応援選手」が参加できるようになりました。人口減少や選手の確保が難しい市町村をサポートし、チーム編成をより行いやすくするために新設されました。

只見町チームには来年、暫定開通予定の国道289号八十里越を通じてつながる三条市出身の丸山真孝さんと内田善登さんが参加します。大会への意気込みを伺いました。



丸山（まさたか）　真孝さん

今回ふるさと応援選手としてふくしま駅伝を走る機会をいただき感謝しております。

当日は只見町と三条市、両地域の絆と皆さまへの思いをタスキに込め、福島の地を全力で駆け抜けたいと思います！応援よろしくお願いします！



内田（よしと）　善登さん

只見町とお隣の三条市を結ぶ八十里越の暫定開通を記念し、ふるさと応援選手として走らせていただきます。タスキとともに、両市町の思いをつなぎ、地域の皆さまに元気を届けられるよう、感謝の気持ちを胸に精一杯頑張ってまいります。